

令和7年度 宝木中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

- (1) 基本目標 「人間尊重の教育を基盤に、知・徳・体の調和のとれた発達を目指し、心身共に健康で知性と創造性に富み、心情豊かでたくましく未来を拓く人間の育成」
- (2) 具体目標（具体的な生徒像）
- ① 気力・体力のあるたくましい生徒（たくましく）
 - ② 自ら学びよく考える生徒（さとく）
 - ③ 心豊かで礼儀正しい生徒（あかるく）
 - ④ 協力し社会に役立つ生徒（いきいきと）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- 学校は ○子どもたちにとって安心して楽しく充実した学びができる場所であること⇒（行きたい学校）
○教職員にとって働き甲斐を感じながら意欲的に取り組むことができる場所であること⇒（勤めたい学校）
○保護者、地域の皆様から信頼される場所であること⇒（通わせたい学校）

このような学校を目指し、信頼と心の触れ合いを基盤とした豊かな人間関係に支えられた「ぬくもりと夢のあふれる学校」づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学習指導要領や第2次宇都宮市学校教育推進計画などの趣旨を踏まえると共に、生徒の実態や学校・地域の特色を生かした特色ある教育課程の編成・実施に編成する。
- (2) 生徒の実態に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善を図り、生徒一人一人の確かな学力を育成する。
- (3) 生徒理解を基盤として生徒指導・生徒支援の充実を図ると共に、生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や長期的な視点に立った特別支援教育を推進する。
- (4) 道徳科の充実を図り、生徒一人一人の道徳的実践力を高めると共に、読書活動や体験活動を一層推進し、生徒の内面に根ざした道徳性を育成する。
- (5) 家庭との連携を強化し、健康管理や体力づくり、食に関する指導の充実を図るなど、生徒が将来にわたって健康に生活していく基盤づくりを推進する。
- (6) 生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育、進路指導を推進し、社会的・職業的な自立に向け必要となる能力・態度を育成する。
- (7) 生徒に向き合う時間を確保するため、教職員の勤務時間の適正化、業務の効率化や改善を図るなど働き方改革を推進する。
- (8) 教育的愛情と使命感をもち、教育公務員としての服務規律の厳正やコンプライアンス、危機管理を徹底する。
- (9) 児童生徒の9年間の成長を見通した小中一貫教育を推進し、学校園で共通理解を図りながら宝木地域学校園が目指す心豊かな生徒を育成する。

【宝木地域学校園教育ビジョン】

テーマ「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成を目指します。

～他を思いやる心や規範意識を育み、基本的生活習慣や主体的に学ぶ態度を身に付けさせる指導の充実～

- (10) よき伝統や地域の特徴を生かし、魅力ある学校づくり地域協議会と連携・協力し、地域の教育力を生かした教育活動を推進する。

4 教育課程編成の方針

教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、学習指導要領、県教育振興基本計画2025、市学校教育推進計画などを踏まえ、学校教育目標の具現化を目指し、生徒の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分に考慮した適切な教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
- ・全教職員が学校の課題を共通認識し、課題解決のためにチームとして取り組む協力体制を確立する。
 - ・生徒が安全に安心して学べる環境づくりを行い、家庭や地域から信頼される学校づくりを行う。
- (2) 学習指導
- ・個別最適な学びや協働的な学びの場を設定し、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得に向け「わかる・できる授業」

を行うとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を改善する。

- ・家庭で自主学習ノートを活用したり、宿題や課題に粘り強く取り組んだりするなど家庭学習の習慣化を目指した指導を行う。

(3)児童生徒指導

○自己肯定感や自己有用感を育てるとともに、「認めて褒めて励まして」の3指導を行い、よりよい人間関係づくりと不登校対策を推進する。

- ・問題行動の未然防止と早期発見に努めるとともに、規律と礼儀を重んじ、規範意識や判断力を身に付ける指導を組織的に行う。

(4)健康（保健安全・食育）・体力

- ・危険の予測や危機回避能力の育成を図る防災教育を推進する。
- ・感染症予防や食育を通じた健康で安全な生活習慣を確立する。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・調べたことや分かったことなど思考を整理するために自分でまとめたり、対話によって自分の考えを広げたり深めたりする学び合う場を設定するなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導を充実させる。 ・積極的にグループ活動などを取り入れると共に、生徒が意欲的に授業に取り組めるよう、宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」を実行し、授業改善を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より2.0%低く86.6%であったが、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・思考を整理したり、対話による学び合いを行ったりする場を多く取り入れるなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。 ・生徒が積極的に、ICTを活用できるような授業改善を行う。
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・道徳の授業では、資料提示と発問の工夫を行い、判断力などが高められるようしていく。 ・日々の授業や学校行事などで、友達と互いのよさを感じられるような活動を取り入れ、思いやりや協働する心を育てる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より0.2%低く91.3%であるが、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・日常生活でのあいさつや学校行事など、あらゆる場面で、友達と互いの良さを認め合ったり、声かけなどを行ったりするようにする。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・学校行事や部活動を通して最後まで粘り強くやり通す力がつくよう適切な目標を設定させ、有意義な体験ができるように支援する。 ・学年、学級目標、学年行事のスローガンなどを達成するための個人目標を明確にもち、協力して努力する態度を育成する。 ・失敗を恐れずに目標に向かって粘り強く挑戦したり、自分の課題を見つけ、考え、行動し努力を続けたりするなど、指導を充実させる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が昨年度より1.7%高く79.5%であったが、数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・学校行事や部活動などを通じて、失敗を恐れずに目標に向かって粘り強く取り組んだり、自分の課題を克服するために努力を続けたりできるよう指導していく。

1-（3） 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	<p>A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育や食育、体育的活動の充実を図り、健康や食の大切さに気付かせる共に、適度な運動を継続させるなどして、健康的な生活を送ることができる態度を育成する。 ・交通安全教室や避難訓練を通して、安全に関する意識を高め、自己の生命や安全を自分の力で守ることができる態度を育成する。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より2.7%高く90.7%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・保健教育及び食育の更なる推進に注力し、生徒が自己の健康に関心をもち、健康的な生活習慣を身に付けることができるよう、計画的な指導を図る。 ・生徒が自他の安全に留意した生活を送ることができるよう、更に教育活動全般を通して指導を徹底する。</p>
1-（4） 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	<p>A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートを活用し、学習したことを積み重ねていく過程で振り返りや反省を繰り返すことにより、学習した内容の深化を図り、進路に関する目標を考えさせる。 ・地域学校園で「キャリア教育の指針」を作成し、小学校と連携してキャリア教育を行う。 ・地区体育祭や宝木まつりなどの地域活動やボランティア活動に参加するよう、教室へのチラシ掲示や生徒会からの働きかけを行い、社会貢献を積極的に行う態度を育成する。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より2.0%高く85.1%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・キャリア教育の充実を図り、進路に関する目標を明確にしていく。 ・地域ボランティア活動に参加できる機会を与え、社会貢献を積極的に行う態度を育成する。</p>
2-（1） グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	<p>A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業の中で英語で対話する場を多く取り入れると共に、スピーキングテストを行うことで、ALTと積極的に英語でコミュニケーションをとる場面を設定する。 ・授業以外で生徒が英語を身边に感じる環境を作る。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より1.6%高く63.4%であったが、数値目標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・英語の授業では、継続して担当教師やALT、生徒同士による英語で対話する場面を多く取り入れ、英語を使ってコミュニケーションをしたことへの賞賛を意識的に行い、生徒の自己肯定感を高められるようにする。 ・授業以外の場でも英語に触れることができるよう、昼の校内放送などを利用し、英語に触れる機会を増やす。</p>
	<p>A 7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮学で学んだ歴史や文化、風景など自らが住んでいる地域に改めて目を向ける機会とした断郊協歩大会を通し、見聞きしたことを俳句や振り返りなどで表現する力を高める。 ・スポーツや食、芸術、住みやすいまちづくりなど、宇都宮の魅力を知ることで、郷土のよさを理解できる指導を充実させる。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より5.5%高く86.0%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・「宇都宮学」による宇都宮の歴史や文化の学び、断郊協歩大会を通した地域への理解、スポーツや食、芸術、住みやすいまちづくりなどの宇都宮の魅力など、郷土のよさについての指導を行う。</p>

2-(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	<p>A 8 生徒は、デジタル機器や図書などを学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各教科及び総合的な学習の時間における調べ学習などで、一人一台端末や図書、資料などを活用する力を育成する。 「AI ドリル」を活用した家庭学習やレタイムでのAI ドリル学習を継続して行う。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答は昨年度より3.9%高く73.0%であったが、数値目標に達しなかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業で、一人一台端末の効果的な利用方法の研究を継続する。 一人一台端末や図書、資料を活用し、自分の考えをまとめる力を育成する。 自主学習ノートだけでなく、「AI ドリル」を活用した家庭学習も行えるよう、各教科での活用を促す。
2-(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	<p>A 9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動や各教科の学習の中で、SDGsについて意識したり、理解を深めたりする場を設定し、「持続可能な社会」への関心を高める指導を行う。 新聞記事やニュースなどの情報から、環境問題や災害など、身の回りに起こっている出来事に関心をもたせる。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答は昨年度より7.7%高く74.8%であったが、数値目標に達しなかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別活動や総合的な学習の時間を通して、SDGsの取組を推進すると共に、教科横断的な指導を通して「持続可能な社会」について理解させ、関心を高める学習内容を工夫する。
3-(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	<p>A 10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎週の教育相談部会、及び校内支援委員会(年3回)を通して、一人一人の教育的ニーズを把握する。 特別支援小委員会やケース会議を適宜開き、チームで方向性を協議しながら支援を行う。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の肯定的回答は昨年度より2.9%低く97.1%であったが、数値目標に達した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員間の連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズを把握し、個々の状況に応じた適切な支援を行う。
3-(2) いじめ・不 登校対策の 充実	<p>A 11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道徳・学活の年間指導計画に、いじめ根絶に向けた授業を年4回位置付け、実施する。 5月、9月、12月、2月に「いじめの調査」を実施し、未然防止、早期発見・早期対応に努める。 「学校いじめ防止基本方針」に基づいた研修を行い、教職員の意識を高める。 生徒会を中心にいじめゼロ集会を実施し、いじめが許されないことへの生徒の意識を高める。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答は昨年度より1.8%高く96.0%であり、数値目標に達した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳・学活の授業で、いじめ根絶に向けた授業を実施する。 「学校いじめ防止基本方針」に基づいた研修を行い、教職員の意識を高める。
	<p>A 12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、認めて褒めて励ます賞賛などの言葉かけや、生徒が活躍できる場面を設定し、学級が生徒の居場所となるような温かい雰囲気を作る。 宮っ子ダイアリーを活用し、生徒理解を深めると共に、日常的な生徒の観察を充実させる。 意図的・計画的に教育相談を実施し、配慮生徒への支援を行う。(ケース会議・チーム対応) 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答は昨年度より1.8%高く96.3%であり、数値目標に達した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な生徒の観察を通して、教職員間や関係機関との連携を図りながら、配慮生徒への支援を行う。

3-（3） 外国人児童 生徒などへ の適応支援 の充実	A 13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動を中心に、生徒の主体的活動を積極的に取り入れ、リーダーの育成を図る。 ・教育相談やQIなどを活用し、より良い人間関係づくりができるよう支援し、生徒にとって居心地の良い学級経営に努める。 ・「認めて」「褒めて」「励ます」指導を中心掛け、生徒の自己肯定感の醸成を図る。 	B 【達成状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は昨年度より1.0%高く96.9%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に活動し、自己肯定感を高める場を多く設定し、学校行事などを通してリーダーの育成を図る。 ・教育相談やQIなどを活用し、個々に応じた適切な支援や相談を行う。 ・きめ細やかな対応や3指導の充実を図り、生徒と教師の信頼関係をより良いものに築いていく。
4-（1） 教職員の資質・能力の向上	A 14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲を喚起するとともに、「ねらい」「学び合い」「まとめ」「振り返り」を学習活動に適切に位置付けることで、宇都宮モデル「はっきり・じっくり・すっきり」を実行し、学力向上に繋げる。 ・理解の状況に応じた繰り返し指導や習熟の程度に応じた指導など、個に応じた指導を充実させる。 ・一人一授業公開をし、授業研究会を行うことで教員の授業力向上を図る。 ・OJT機能を使い、若手教員の授業力向上を図る。 	A 【達成状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は昨年度より2.1%高く92.2%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が授業のポイントを捉えて授業に臨めるよう、本時のねらいを分かりやすく提示したり、授業の振り返りを行うことで、家庭学習で復習すべきことはっきりさせたりするなど、きめ細かな指導を行う。 ・一人一授業公開をし、職員研修にて授業研究会を行うことで教員の授業力向上を図る。特に今年度は、「じっくり」を学校課題にして研究を行う。 ・タブレットなどのICTを活用した、一人一授業公開を実施する。 ・OJT機能を使い、若手教員の授業力向上を図る。
4-（2） チーム力の向上	A 15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・「報・連・相」を含めたコミュニケーションを通して、教職員の共通理解を図り、今後の指導の手立てや方針を確立し、組織的な対応に努める。 ・各セクションのリーダーを中心に、関係職員や関係機関との連携を密にして業務を遂行する。 	B 【達成状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は昨年度より8.6%低く91.4%であったが、数値目標に達した。 【次年度の方針】 <ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすく、風通しの良い職場環境を醸成する。 ・各種部会及び会議等のみならず、日々の報・連・相を含めたコミュニケーションを通して、教職員の共通理解を図る。また、様々な課題に対して、教職員が連携し、組織的に対応できるようにしていく。

4－（3） 学校における働き方改革の推進	<p>A 16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌の平衡を保つと共に、役割分担を明確にするなどして組織的に業務を遂行する。 ・ICTを有効かつ積極的に活用し、業務の軽減を図る。 ・会議などの効率化のため、内容を精選すると共に、連絡事項については、簡潔に伝達するなど業務のスリム化を推進する。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は昨年度より1.7%低く88.6%であったが、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・業務や学校行事等の見直しを行い、スマートスクール化を推進する。 ・業務の優先順位を明確にするなど、見直しをもって職務を遂行する。 ・ICTをより効果的に活用し、業務の精選・効率化を図る。 ・文書やデータ、各教科の物品などの整理を行うなど、機能的な職場環境整備に努める。</p>
5－（1） 全市的な学校運営・教育活動の充実	<p>A 17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・合同あいさつ運動や共通のお弁当の日実施などの活動をより充実させ、児童と生徒のつながりを強くる。 ・小・中教員間での情報交換を充実させることにより、現状や課題について共通認識の下、一貫した指導を図る。 ・地域学校園の取組について、学校ホームページで情報を発信するなどして保護者や地域へ啓発を図る。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より3.9%高く87.6%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・小・中間の交流の機会を通して、児童生徒が地域学校園のつながりをより意識できるよう指導する。 ・生活・学習面に関する地域の子どもたちの課題を明確にし、その改善や向上に向けた具体的な対策を実践する。</p>
5－（2） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	<p>A 18 学校は、家庭・地域・企業などと連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上 地域住民の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「茶道教室」、「働く人に学ぼう」、「宮っ子チャレンジ」など、総合的な学習の時間において地域の人材を積極的に活用する。また、「放課後自習支援」、「防災教室」などにおいて、地域の人材に協力を得て、より充実した学校教育を推進する。 ・「高校説明会」「人権に関する講話」、「薬物乱用防止教室」など、関係機関と連携した活動を行う。 ・部活動地域移行に向けて、組織作りや指導者の確保について、地域と共に検討する。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は昨年度より2.5%低く94.3%、地域住民の肯定的回答は100%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・地域の人材を積極的に活用し、本校独自の特色ある教育活動を更に推進する。 ・休日の部活動地域展開の更なる推進に向け、地域と連携を積極的に図ることで、移行をスムーズに実施できるようにする。</p>
5－（3） 地域と連携・協働した学校づくりの推進			
6－（1） 安全で快適な学校施設整備の推進	<p>A 19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検を確實に実施し、市会計年度任用職員（学校業務）や機動班との連携を図り、修繕箇所の早期改善に努力する。 ・危機管理マニュアルを元に、安全教育年間計画を見直し、計画的に実行する。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・「安心・安全な学校つくり」を学校経営の柱とし、全職員共通認識の下、取組を推進する。 ・毎月の安全点検を確實に実施し、修繕箇所の早期改善に努力する。 ・適切な感染症対策を実行する。 ・危機管理マニュアルを元に安全教育の年間計画を見直し、計画的に実行する。</p>

6-(2) 学校のデジタル化推進	<p>A 20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができるている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業や家庭学習においてデジタル教科書やAIドリルを積極的に利用できるよう、一人一台端末の効果的な活用法について研究を進める。 	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は昨年度より8.6%低く91.4%であったが、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・授業や家庭学習においてデジタル教科書やAIドリルを積極的に利用できるよう、一人一台端末の効果的な活用法について研究を進める。また、生徒への適切な使用の啓発を継続する。 ・教職員の研修を継続して実施する。</p>
小・中学校、地域学 校 共通、本校 の特色・課題など	<p>B 1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して生徒会を中心にあいさつ運動を行い、あいさつの大切さを気付かせる。 「茶道教室」を通して、礼儀作法の大切さに気付かせ、真心を込めてあいさつができるよう指導する。 ・道徳の授業で言葉づかいやあいさつに表れる人間関係や自身の心のありようをじっくり見つめ直すことの大切さを指導する。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より0.2%低く96.0%であったが、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校生活のあらゆる場面であいさつの大切さを気付かせると共に、生徒会主体で行っているあいさつ運動の充実を図る。</p>
	<p>B 2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学年学級委員会などと協力し、授業開始のチャイムが鳴る前に自ら着席するなど、時間に余裕を持って行動できるよう指導する。 ・生徒が集団生活や社会におけるきまりやルールについて考える場を設定し、主体的に判断し行動できる力を身に付けさせるなど、規範意識を育む指導を充実させる。 ・ネットトラブル防止に関する指導を全体及び学年ごとに実施する。また、保護者会の機会を捉えて情報提供し、理解・協力を要請すると共に、小学校との連携も強化する。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より0.7%低く92.9%であったが、数値目標に達した。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒が集団生活や社会におけるきまりやルールについて十分理解し、行動にうつせるよう指導する。</p>
	<p>B 3 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上 地域住民の肯定的回答 90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「断郊協歩大会」を通して、郷土の良さに気付き、これらを末永く大切にしようとする郷土愛の心を育てる。 ・「かまどベンチ」を利用した防災教育を実施し、地域防災に対する意識を高める。 ・「茶道教室」を通して、日本の文化に触れることにより、日本の素晴らしさに気付かせる。 	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は昨年度より4.9%低く88.6%、地域住民の肯定的回答は100%であり、教職員の数値が目標に達しなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・地域の財産や人材を活かした特色ある教育活動を積極的に展開し、よりよい生徒の育成に努めると共に、郷土や本校の素晴らしさを生徒に実感させる。 ・生徒たちが、自身も地域の一員であり地域に支えられていることを自覚し、地域に役立とうとする態度を育成する。</p>

	<p>B 4 生徒は、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <table border="0"> <tr> <td>生徒の肯定的回答</td><td>85%以上</td></tr> <tr> <td>保護者の肯定的回答</td><td>70%以上</td></tr> </table>	生徒の肯定的回答	85%以上	保護者の肯定的回答	70%以上	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き」を年度初めのオリエンテーションや学級活動の時間で生徒へ配付し、学年の学習係や学級担任から説明するとともに、保護者にも「家庭学習の手引き」を配付し、家庭と学校で連携を図りながら指導を継続していく。 自分の立てた目標の達成のために、自主学習ノートを活用したり、授業と家庭学習をつなげる宿題や課題に取り組ませたりするなど、計画的な家庭学習ができるよう支援し、「自分から勉強する」姿勢を身に付けさせる。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的回答は生徒が昨年度より0.1%高く82.6%、保護者が昨年度より9.7%高く74.0%であり、生徒の数値が目標に達しなかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き」を生徒及び保護者にも「家庭学習の手引き」を配付し、家庭と学校で連携を図りながら指導を継続する。 自分の立てた目標を達成するために、自主学習ノートを活用したり、授業と家庭学習をつなぐ宿題や課題に取り組ませたりするなど、粘り強く家庭学習に取り組めるよう指導する。
生徒の肯定的回答	85%以上						
保護者の肯定的回答	70%以上						

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・A1、A7において教職員と保護者の肯定的回答がR6年度よりも+5から+8ポイント上昇し、著しく効果が表れた。同じくA7においての生徒の肯定的回答は+5.5ポイント向上した。これまでの取り組み成果であると考える。
- ・A6「生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている」においては、生徒も教職員も肯定的回答が市の平均よりも10ポイント以上低く、改善を要する。国際理解教育の面から生徒の育成をはかり、英語によるコミュニケーションの大切さを理解させるとともに、豊かな表現力を育成できるよう、英語の学習指導を中心として重点的に取り組み、改善を図りたい。
- ・A8「生徒はデジタル機器や図書等を学習に活用している」においては、教職員と生徒の肯定的回答が市の平均よりもやや低い傾向が見られる。改善を進め、肯定的回答率の向上を目指したい。特にタブレットやPCを活用する場面が、多くの教科で見られると良い。引き続きこの点については、タブレット端末を有効活用できる授業の展開と教材開発に努めたい。課題としては、図書の活用場面を増やすことで、よりよい言語活動や豊かな心の育成を進めることである。
- ・A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である」においては、R6年度より生徒の肯定回答率が+1.0ポイント上昇し、市の平均よりも1.2ポイント高い。明るく素直な生徒が多く、生き生きと学校生活を送っており、学校全体も活気があるように思われる。
- ・A14「教職員は、わかる授業や児童生徒にきめ細かい指導を行い、学力向上を図っている」において、教職員の肯定的回答が100%で市の平均よりも高い。また生徒においても+2.1ポイント上回っている。「啐啄同時」を学習を進める上での合言葉に、教師も生徒も同時に指導・学習改善を図ることでより効果的な学力向上を進めることができると考える。
- ・A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」においては、数値目標を3.6ポイント上回っており、部活動時間の短縮や電話対応時刻の設定など業務改善が図られており、昨年度よりも職員の退勤時刻が早くなつた実感がある。
- ・B3「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している」においては、地域住民の肯定回答が100%である。地域の財産や人材を効果的に活用し、「断郊協歩大会」「防災教室」「茶道教室」等、本校独自の特色ある教育活動を展開し、心の教育の推進等成果をあげることができた。
- ・B4「生徒は、家庭学習に意欲的に取り組んでいる」においては、R6年度よりも教職員の肯定的回答率は+10.5ポイント、保護者においては、+9.7ポイント上回っており、これまでの取り組みが功をなしていると考える。今後も、引き続き自主学習の毎日の提出や学習の手引きをもとにした指導を継続していきたい。

7 学校関係者評価

- ・A3「生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」について、生徒一人一人に目標を設定させ一年間の努力状況を見る。生徒、先生が目標に向かってあきらめずに取り組んでほしい。
- ・A6「生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。」について、教職員の肯定回答率が年々下がってきているのは、取組の方向性が間違っているのではないのか。他校の取組を調査研究すべきでは。中学生で英語が「苦手・嫌い」というイメージを持つと将来大変なマイナスになる。日常的な英会話があることが大事だと思う。もっと関心を持つ取り組みがあると楽しく学べる・興味を持つにつながるのかと思う。
- ・A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」について、学校はアンケート（年4回）や相談できる先生などよくできていると思います。生徒一人一人に意識を待たせることが必要。子どもが相談しやすい環境整

備、教員の質の向上、宝木中独自のいじめ・不登校対策の強化。地域協議会や地域がこれらの問題に関わる部分の共有が必要。いじめについての取組を聞いてとても良いシステムだと思いました。不登校の生徒の増加への対応の強化が必要では。生徒の肯定回答率が高いことから、先生方への信頼が厚いことが表れていると思う。

- ・アンケートに SNS についての質問が無いのが気がかり。SNS の功罪をきちんと学習させることが重要。
- ・防災教室に参加し、子どもたちと触れ合うことができ、宝木中の生徒の素直な優しい姿を見ることができました。
- ・生徒の肯定回答率が年々向上している項目が多く、充実した学校生活が送れていることが分かった。
- ・みなさん、いつもにこにこ挨拶をしてくれます。とても素晴らしいと思います。挨拶が良くできている様子は日常よくわかる。生徒たちは素直で学校生活を楽しんでいると感じる。地区内で生徒に会うと必ず笑顔で挨拶してくれる。
- ・生徒一人一人が自己的実現のために何を学び何を身に付けたいと思っているのか十分に対話できる環境作りがあると良い。何のために学ぶのかを将来どんなふうに生きていきたいのか思い描くことが、現在の在り方につながると思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・全体アンケートの結果から、概ね本校の教育活動に肯定的に受け止められていると捉えられる。次年度に向け、肯定的回答率が高かった取組については更なる充実を目指し、課題が残る取組については具体策の見直しや工夫を行っていきたい。

【次年度の向けた主な取組】

○児童生徒に確かな学力を身に付けさせるための授業改善を推進する。

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うために、板書の工夫や、特別支援教育の視点を取り入れた指導の工夫、ICT の活用（学びの深化転換）、学び合いのコーディネートを行う。
- ・生徒が授業のポイントを捉えて授業に臨めるよう、本時のねらいを分かりやすく提示したり、授業の振り返りを行うことで、家庭学習で復習すべきことをはっきりさせたりするなど、きめ細かな指導を行い、向上を図る。来年度は、「じっくり」を学校課題にして研究を行い、タブレットなどの ICT を活用した、一人一授業公開を実施する。
- ・英語の授業において、担当教師や ALT、生徒同士による英語で対話する場面を多く取り入れ、英語を使ってコミュニケーションをしたことへの賞賛を意識的に行い、生徒の自己肯定感を高められるようにする。

○児童生徒一人一人が自分の良さや可能性を認識し、自己有用感を高められるように支援する。

- ・自らの良さに気付き、伸ばす指導の工夫として、良さを認め励ます支援や、学ぶ意欲を喚起する指導、多義に認め、励まし合い、学び合う学習の場の設定、自己評価や総合評価を含めた振り返りなどを行う。
- ・学校行事や部活動などを通して、失敗を恐れずに目標に向かって粘り強く取り組んだり、自分の課題を克服するために努力を続けたりできるよう指導していく。
- ・生徒が集団生活や社会におけるきまりやルールについて十分理解し、行動にうつせるよう指導する。また、SNS に関する指導にも力を入れていく。
- ・年 4 回の「いじめの調査」を実施し、未然防止、早期発見・早期対応に努める。また、道徳・学活の授業で、いじめ根絶に向けた授業を実施し、「学校いじめ防止基本方針」に基づいた研修を行い、教職員の意識を高める。
- ・「COCOLO プラン」を踏まえ、生徒一人一人が居心地良く、安心して過ごすことができる学校づくりを行う。「新たな不登校を生まない」を合言葉に、不登校対策に力を入れ、合わせて、安心・安全な学校であることを生徒、保護者、地域に発信していく。